

【産業・交流・移住定住部会】庁内・審議会合同部会 議事録（要旨）

開催日・出席者等

開 催 日 時 令和7年7月8日（火） 14時15分から15時30分まで
場 所 山ノ内町文化センター ホール
出 席 者 審議会部会員6名、庁内部会員5名、事務局1名 計12名

協議状況（会議事項）

第1節 ひとつながる観光の郷土づくり（第6章の該当部分も併せて庁内策定委員会専門部会から説明、以下同じ）

1. 観光

【審議会1】

インバウンド数はどのくらいか。

【庁内1】

外国人の延宿泊者数が、令和6年度78,446人泊。

【審議会2】

この町に世界中の観光客が訪れていて、最近では中長期的な滞在が増えていると感じている中で、子どもたちに国際感覚を養ってもらいたいと思っている。9月に楓の館を借りて、ロマン美術館と連携し、旅する茶室という移動茶室を企画している。今年東小学校でお茶の専門部ができて希望する子供たちが習い始めたところであり、その子たちにお手伝いをしてもらおう。そこに来た外国人の人たちと交流を持ってもらって、日本文化を身に付け、海外の人たちをおもてなしするきっかけづくりをやっていききたい。ホームステイとももちろん大事だが、みんなが幅広く触れる機会、最初の一步が踏み出せる機会が少しずつ増えていくとよいと思う。成長して外へ出ても、やっぱり町で外国や世界の人たちと関わって仕事をしたいと戻ってしてくれる町を10年20年先を見据えてやっていけたらよい。町が何かやりたいということであれば協力させてもらうので一緒に盛り上げていきたい。

第2節 ひとつつながる産業の郷土づくり

1. 農業

【審議会3】

ユネスコエコパークの活用やSAVOR JAPANについて教えてほしい。

【庁内3】

ユネスコエコパークの推進については志賀高原を含め町全体が公認されており、恵まれた自然ということとともに、マークを販売する段ボールに貼ってPRをしてきたところである。SAVOR JAPANについては令和5年度までは取り組んできたが令和6年度以降は取り組んでいない。この場で詳しく回答できない。➡ 後日回答させていただく。

【審議会 3-2】

ユネスコエコパークのマークについては、JA の関係ではすべての農産物の出荷段ボールに印刷をして出荷しており、何千から何百万箱という数になる。ぶどうは房を包む袋に山ノ内町と、志賀高原、湯田中渋温泉郷、北志賀高原のロゴを入れて出荷し、消費者の手元に届いている。ユネスコエコパークはもっと戦略的に使ったほうが良い。認知度が低いため、ユネスコエコパークがどういうものかを PR しないとロゴマークを入れるだけでは意味がない。高山村も同様にしているが、やはり認知度がない。外国人には比較的認知度はあるが、日本人に向けてやり方を考えたほうがよい。

【審議会 3-3】

今環境省の方が志賀高原に注目されている。人が自然環境を守ってきたことに評価をいただいて、志賀高原ユネスコエコパークがどんなものであるかを地域の皆がちゃんと伝えられる仕組みを作ることによって広がっていくという動きがある。町でも住民に対して、基準とほかの地域とは違う山ノ内町のすばらしさを出していただけるとよい。

【庁内 3-2】

志賀高原ユネスコエコパークは 1980 年に登録されて、今志賀高原の一部がエリア外だが今年度審査会でおそらく認められて町内全域がエリアになる。海外ではそれなりに通用するが、世界遺産とは別なもので、自然と社会の共生でまちづくり活動を進めていきたい。今年 PR 動画を作成しており、町内外に向けて発信を進めていきたい。

【審議会 4】

農産物の販路拡大について、JA に贈答用のリンゴを買いに行くと、ほとんど当たり前になくなってしまっているが、販路拡大するほど売れていないのか。

【庁内 4】

売れていないのではなくて、絶対数が少なくなっている。お店に出す品質が良いものは数が絞られて、今年のように雹害があった年は訳ありという形で出すのであれば量は確保できるが、絶対数が少ない。

【審議会 4-2】

その辺がちょっと合わないと思い、販路拡大するほど農産物がたくさんあるのかと思う。

【審議会 4-3】

販路拡大は JA がやることで、プロモーションは町がやること。販路は行政ではできない。りんごはぶどうにシフトしているし、高齢でやめていく人も多くそれを補うだけの就農者がいないのは全国的な動き。跡取りがいない。すべて手作業で果樹の場合は機械化も難しい。外国の方の就労支援をしながら上手に回していけばいいが、JA も中央会を通して就労支援の実績はあり夏から秋にかけて八ヶ岳の野菜作りに従事した外国人 5 人くらいを秋に志賀高原のホテルに、冬はスキー場に紹介した。支援機関はいろいろあるので上手にマッチングすれば若干の解消にはなる。

2. 林業

【審議会 5】

ABMOR I は中止か。

【庁内 5】

植樹としてのABMOR I は令和6年度で終了だが、今後は植樹した木を守り育てていくことに重点をおいて活動していく。

3. 商工業

【審議会 6】

起業や経営安定支援のところで、町が持っている物件をチャレンジショップという形で短期的に3か月くらいで貸し、チャレンジしてみて、いけそうと思ったらその町で物件を探して事業展開するということを他の自治体で試みているところがあるが、山ノ内町ではやっているか。もう物件を持っていて進めるなら補助を出すという制度か。前段階のものと一歩踏み出しやすい。町で居抜きの物件があつて、キッチンつけてカフェがすぐできるとかそういうものがあればよい。

【審議会 6-2】

東小学校の教員住宅はそうではないのか。

【庁内 6】

それは教員住宅をリノベーションするのであつて、チャレンジショップではない。

【審議会 6-3】

例えば洪温泉にも空き物件があるので、町で交渉し取得してチャレンジショップとしてやるとよいと思う。

4. 雇用・就労対策

【審議会 7】

求人求職マッチングシステムはいつから実施しているか。

【庁内 7】

令和6年8月に開設した。

【審議会 7-2】

実際に就労した人の数は。

【庁内 7-2】

この3月時点で、409名の方が登録いただいて、209名の応募があり、採用になったのが175名。

【審議会 7-3】

観光が多いか。

【庁内 7-3】

観光がメインになる。

【審議会 7-4】

今人手不足で皆困っている中で非常にいいことだと思う。8月に開設したということなので冬場の観光関係に就労したと思うが、何日くらい就労したかやリピート率はわかるか。隙

間バイト、デイワークのようなものか。

【庁内 7-4】

短時間雇用で、隙間時間を使って働いていただくものである。雇用側も就労側もそれぞれアンケート機能があるので、日数や働いてみた感想は聞けるようになっている。

【審議会 7-5】

観光も農業も季節的に人が必要になる。マッチングアプリはいろいろあって、また勤めてみたいと思われることが多いほうが有利になる。できるだけ内容をよくして、就労しやすく、使う方も使われる方もいい立場で時間活用できるシステムにしていきたい。

【審議会 8】

先日町から、農業で雇用する人の住む場所を提供していただけないかという通知が来た。志賀高原は冬が忙しくて夏が閑散とするが、農業はグリーンシーズンのほうが忙しく冬に手が空くので、そこをうまく雇用を活用できる仕組みがあったらよい。実際に他のところでやっていて、そういうビザをとって来ている方がいらっしまったので、町内で完結できそうだなと思った。

【庁内 8】

課題として観光業と農業で繁忙期がずれているので、組み合わせての通年雇用を考えているところである。

【審議会 9】

マッチングについて、別のサイトでマッチングをお願いしているが、何回も来てくれるリピーターの人がある。働く場所の待遇や状況によって頻繁に変わってしまう場合があるので、事業所側もちゃんと対応しないと逃げてしまう。事業主も働く人がうまくいくようなシステムを作っていかなければ一過性で続かない。名前や働いた記録は残るのか。

【庁内 9】

情報は残る。

【審議会 9-2】

リピーター率がわかると思う。リピーターは大事。

第3節 ひとをつなげる交流の郷土づくり

1. 都市・国際交流

【審議会 10】

現在海外の友好都市はいくつあるか。

【庁内 10】

中国北京市の密雲区、アメリカコロラド州のバイル町、最新では今年の1月のフランスのサン・ジェルヴェ・レ・バン市の3つになる。

【審議会 10-2】

国内は。

【庁内 10-2】

東京の足立区、群馬県の玉村町。それ以外は災害時支援やパートナー都市というのはあるが、議会の議決を持って認められた友好都市は足立区と玉村町の2つである。

【審議会 10-3】

根本的なことを聞くが、友好都市は何のためにあるのか。

【庁内 10-3】

難しいところで、広い意味や狭い意味もあるが、国内は何か縁があつてというところがある。海外はそれぞれいきさつはあるが、今の町長としては国際交流をすることによって子どもたちの可能性を広げたく、ゆくゆくは余裕があれば行き来したい。ベイルは大きなスノーリゾート、サン・ジェルヴェ・レ・バンは似たようなスキー場と温泉がある観光都市で、お互いに観光施策、環境に対する取り組みなど広いところで勉強したり情報交換しあったりしたいと考えている。

【審議会 10-4】

町民と行政の見方がちょっと違っていると思う。ベイル町は観光都市ということで学ぶことは多いと思うが、国際交流の状況が伝わってこない。子どもを派遣する取り組みは続いているのか。

【庁内 10-4】

先方の意向もあり、ベイル町は子どもというより経済的な面での情報交換がメインになっているが、フランスは小中学校の交流が続いている。固まっていないので詳細は言えないが、今後中学生が海外で短期のホームステイをすることを、町長が考えていると聞いている。

【審議会 10-5】

やりすぎないようにしてほしい。注目する人はものすごく注目するが一般の方はほとんど注目しない。お金もかかるので、もっと広報なりでしっかり知らせないと間違った感じ方もあると思う。

【庁内 10-5】

なるべくお金がかからない方法でやろうということになっている。町民感情は担当者レベルでは十分理解したうえでやっているとお含みおきいただきたい。

【審議会 10-6】

理解が足りないと思う。

2. 移住定住

【審議会 11】

空き家バンクや空き地バンクはどのくらい登録されているか。

【庁内 11】

空き家・空き地バンクの新規登録件数は、令和6年度は5件、令和5年度は13件、令和4年度は14件、令和3年度は13件。マッチング件数は令和6年度は8件、5年度は10件、4年度は18件で登録が来ればすぐに買い手がつく状況である。

以上